

タイ:本年の太陽光発電導入量、 過去 2 年間の実績を大幅超過の見通し¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

タイの太陽光発電は 2012 年に、前年の 79MW から 376MW へと大幅に増大した。しかしその後 2 年間の年間導入量は約 500MW に留まり、2013 年、2014 末の累積導入量はそれぞれ、823MW、1300MW であった。しかし、本年の導入量は 1200-1500MW に達し、累積導入量は 2500-2800MW になると見込まれている。

増加の理由は政治の安定と新規再エネ導入目標の設定、売電契約 (Power Purchase Agreement) の締結の遅れなどで停止していたプロジェクトが動きだしたこと、および、再エネ事業への新規参入者が増えてきたことなどがあると考えられる。

長期化する政争によって 2014 年の前半はタイの行政機能は数か月間に亘って停滞し、エネルギー政策の施行も大幅に遅れていた。しかし、同年 8 月に誕生したプラユット暫定首相率いる軍事政権の下、タイの政治的混乱は収まりつつあり、本年 5 月、新たな電源開発計画 PDP 2015 (2015-2036) が発表された²。

同計画によると 2036 年までに 57.5GW の新規発電設備の建設が必要とされ、その内訳は天然ガス火力 (17.5GW)、再生可能エネルギー (12GW)、輸入水力/石炭火力 (11GW)、石炭火力 (7.4GW)、その他となっており、再生可能エネルギー発電の果たす役割は大きい。新しい再生可能エネルギー開発計画 (Alternative Energy Development Plan: AEDP 2015-2036) は現在策定中であるが、大きな増加が期待されているのが太陽光、バイオマス、風力で、2036 年の累積導入目標量はそれぞれ 6GW、5.5GW、3GW である³。

タイのユーティリティ規模の太陽光発電は SPCG 社、Bangchak Petroleum 社などの大手事業者を始めとして、多くの中小事業者によって進められてきたが、以下に新規参入者の一例を示す。タイの家電メーカー、Thai Appliance Industry 社 (Thaico) は本年 3 月、外資と共同して、5MW の太陽光発電所を 10 箇所建設すると発表した⁴。同社はかねてより安定的なエネルギー供給源として再生可能エネルギー事業への投資を検討していた。このプロジェクトの総建設コストは 30 億バーツ (約 107 億円)、建設期間は 10-12 ヶ月、5.66 バ

¹ 本稿は平成 27 年度経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外における再生可能エネルギー政策等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュース等を基にして作成した解説記事です。

² http://www.thaigov.go.th/index.php?option=com_k2&view=item&id=91997:91997&Itemid=398&lang=en 参照。旧電源開発計画は PDP2010 (2010-2030)

³ 2012 年策定の AEDP 2012-2021 では、太陽光の導入目標は 2,000MW、2013 年策定の改訂版では 3,000MW。

⁴ タイ工業連盟 Press Release <http://www.fti.or.th/2011/eng/ftinewsdetail.aspx?id=521> 参照

ーツ（約 20 円）/kWh の固定買取価格（FIT）が適用されるとしている⁵。

タイの太陽光発電導入量は ASEAN 諸国のなかで突出している。タイの国内市場で実績を積んできた太陽光発電事業者の中にはミャンマー、フィリピンなどの ASEAN 諸国への進出を計画している事業者もある。本年末に予定されている ASEAN 経済共同体の発足を追い風として、今後このような動きが加速しそうである。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

⁵ もうひとつの例: 発電、空調エンジニアリングなどを手掛ける B グリムパワー社は、本年 5 月、タイの土地開発事業者の Sena Development と共同で太陽光発電事業に乗り出すと発表。本年は 114MW の太陽光発電所の建設を予定。<http://www.nationmultimedia.com/business/B-Grimm-plans-solar-expansion-30260992.html> 参照